

# ATEM Newsletter



発行 映画英語教育学会  
住所 〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場  
4-3-12アルタ高田馬場4F  
TEL 03-3365-0182  
FAX 03-3360-6364  
E-mail office@atem.org  
郵便番号 00820-3-1477

支部・委員会活動報告特集

May, 2017

映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

## *Kindly Take A Moment To Read My Humble But Important Message!*

ATEM President **Makoto KURATA**  
(Kyoto University of Foreign Studies)  
映画英語教育学会 会長  
倉田 誠 (京都外国語大学)



Ladies and Gentlemen,

Allow me to kick off my humble greetings by reiterating the nitty-gritties that I suggested on the front page of the 31st Newsletter. As you may recall, my main points are as follows: 1. Quite a few avid members of ours

do not think that our organizational name (The Association for Teaching English through Movies) is good enough to describe our actual academic content. 2. Some members even claim that the name is incompatible with the recent conference themes and many of the pedagogical presentations we enjoy at our national and regional conferences. 3. Many media-oriented outsiders hesitate to enroll in our organization, because the name sounds as if we were concerned exclusively with movies, in lieu of other audiovisual media in general. 4. Many of the members think it is necessary to adapt the current name to what we have been recently up to.

I brought up the name issue at the Board-of-Directors meeting last November. The directors unanimously decided that the above points are worth discussing and that it is imperative to develop a special deliberative council where this issue of grave importance can be carefully considered from a variety of perspectives. The special deliberative council, which has now been established, consists of two former ATEM presidents, a few veteran ATEM directors, and myself. The council will objectively exchange candid opinions about the issue and put forward its proposal to the ATEM Board of Directors. The final decision, if it is approved at the directors' meeting, will be

officially announced at the general assembly of the 23rd National Convention in November.

Apart from my brief review of the previous newsletter, I would now like to direct your attention to what grand academic activities lie ahead of us this year, on top of a few ATEM regional conferences. First of all, I am pleased to inform you that we will be hosting the 23rd National Convention at Otaru University of Commerce on Saturday November 11 (See p.2 for details). The 2017 Hokkaido academic conference is to be carried out under the theme of "Understanding Society and Language through Visual Media." The landmark general assembly will be followed by an appealing array of academic speeches and symposia, all of which will culminate in a special keynote speech by Dr. Eijun Senaha. Professor Senaha will enlighten and entertain the audience by giving out lots of interesting information about "Gender in Movies." I would like to encourage as many members of ours as possible to participate in this thought-provoking pedagogical powwow. Please be advised that you should make hotel reservations at your earliest convenience, as Otaru is one of the noted tourist attractions in Hokkaido, and there may not be many hotel rooms available even in November.

I would also like to usher you to STEM's 2017 international conference, the theme of which is "Active Learning & Interactive Teaching: Using Movies and Multimedia in English Classrooms." Our Korean partner organization is pairing up this year with two other highly acclaimed Korean academic associations, which are KAMALL (The Korea Association of Multimedia-Assisted Language Learning) and KASEE (The Korea Association of Secondary English Education). This collaborative international conference will be held at Gyeongin National University of Education in Incheon City from September 15 through September 17 (See p.5 for details). Twelve ATEM representatives are going to make practical pedagogical presentations at the conference, and so kindly consider partaking in the event and cheering for our peers. Thank you for taking a moment to read through my humble greetings.

# 第 23 回 映画英語教育学会(ATEM)全国大会 The 23rd ATEM National Convention

開催日:平成29年11月11日(土) / Nov. 11th (Sat), 2017  
会場:小樽商科大学 3号館 / Otaru University of Commerce Bldg#3  
テーマ:映画で学ぶ社会と言語  
Theme: Understanding Society and Language through Visual Media

本年 11 月 11 日、北海道の小樽商科大学にて、第 23 回 ATEM 全国大会が開催されます。今回の大会特別講演者は、ジェンダーやセクシュアリティの視点から英文学作品や映画作品を研究しておられる、北海道大学大学院教授の瀬名波栄潤先生です。この他にも、国際ビジネスコミュニケーション協会(IIBC)による TOEIC 特別セミナー、会員による研究発表やポスターセッションが予定されています。皆さんも秋たけなわの土曜日、観光地としても名高い小樽の学舎で、有意義な一日を過ごしませんか。

※会員の著書を展示するコーナーも設けております。

## ■特別講演

### Cinematic Presentation of Alternative Facts: Teaching Gender and Sexuality in Classroom

映画が創出する事実: 教室で教えるジェンダーとセクシュアリティ

講師: 瀬名波栄潤 先生 (北海道大学大学院)



映画を本当の話だと勘違いする学生がいますが、ドキュメンタリーも含めて、個々の映画は独自のメッセージを伝えます。もちろん、ジェンダーやセクシュアリティを扱う作品もそうです。この講演では、文学・映画作品を研究しておられる北海道大学大学院の瀬名波先生に、映画の「オルタナティブ・ファクト」について英語で解説して頂きます。

【講師プロフィール】 北海道大学大学院文学研究科教授。英文学博士。1986 年、国際ロータリー奨学生として米国ミズリー大学大学院に進学。1995 年、サウス・カロライナ大学大学院博士課程修了後、同大学客員助教授。1996 年、北海道大学文学部着任。現在は、ジェンダーやセクシュアリティの視点から、英文学作品や映画作品の研究・教育に取り組む。文学・映画に関する著書・論文多数。

\*\* 事前参加申込期限:10月10日(火) \*\*

ATEM ホームページ <http://www.atem.org> の「全国大会」のページよりお申し込みください

事前申込者参加費:会員¥1,000 非会員¥2,000

(当日参加費:会員¥2,000 非会員¥3,000) 学生無料

※「TOEIC 特別セミナー」のみ参加される方は、13:30 から受付を致します。(一般 500 円 学生無料)

## 【研究発表応募方法】

ATEM ホームページ <http://www.atem.org> の募集要項に従い、会員専用ページ(本号最終頁参照)よりお申し込みください。

\*English presentations will be welcomed.

募集期間: 6月6日(火)~7月7日(金)

応募資格:2017 年度分会費を納入済の ATEM 会員

※会費納入の確認に数日を要しますので、早めにご納入ください。

## ■プログラム ※詳細は発表者決定後に本部ホームページへ掲載

時間	項目
11:30	受付開始
(TOEIC 特別セミナーのみ参加の場合は 13:30 より受付開始)	
12:15-12:35	総会
12:40-12:50	開会式
12:55-13:25	STEM特別発表
(13:30-15:30)	ポスターセッション
13:30-14:27	シンポジウムA(1教室)
13:30-13:57	発表 1(4 教室)
14:00-15:30	TOEIC特別セミナー ※下記参照
14:00-14:27	発表 2(4 教室)
14:30-15:57	シンポジウム B,C,D(3 教室)
14:30-14:57	発表 3(2 教室)
15:00-15:27	発表 4(2 教室)
15:30-15:57	発表 5(2 教室)
16:05-17:20	特別講演 ※左記参照
17:20-17:25	閉会式
18:00-20:00	懇親会

## ■TOEIC特別セミナー

### 「新」TOEIC の社会的意義と攻略法

長嶋裕介氏(国際ビジネスコミュニケーション協会)  
菰寛美先生・福井美奈子先生(京都産業大学)

TOEIC (Test of English for International Communication)は、2016 年度において約 280 万人もの日本人が受験しており、今や「国民的検定テスト」と言っても過言ではありません。本セミナーでは、TOEIC を運営する IIBC の長嶋さんに、その社会的意義と影響力を改めてご紹介頂き、昨年改訂された新形式 TOEIC の概要を説明して頂きます。その後 TOEIC 対策の授業を展開しておられる先生方に、「新」TOEIC の攻略法をアドバイスして頂きます。



長嶋氏

## ■支部だより■

### [北海道支部]

◆ATEM 北海道支部は、昨年の全国大会以降、以下の活動を行いました。

- 1) 支部研究会（隔月開催。情報交換と割り当てられた会員による教材や授業案などのシェア）
- 2) 9月 SAI 大会（韓国ソウル市、国民大学）での支部長による発表「日本国内英文表記エラーの類型」
- 3) 11月 西日本支部大会での支部長による発表（京都大学）『レオン』を使用した授業」
- 4) 11月 第2回 ESP ワークショップ：洋画を活用したビジネス英語の教え方・学び方
- 5) 12月 東日本支部大会での支部長による発表（麗澤大学東京研究センター）「字幕翻訳の類型」
- 6) 3月 第6回 ATEM 北海道支部大会（後述）

◆今年3月11日（土）に開催された支部大会には、全国から中学生を含む60名を超える参加者があり、かつてない盛り上りを見せました。今後の支部大会は、北海道のベストシーズンである6月に開催する方向で調整しております。他支部からの参加者が多いため、次回は発表枠を増やし、さらに盛大な支部大会にしていく所存です。多くの方々の参加をお待ちしております。



◆今年11月11日（土）に、国立大学法人小樽商科大学（小樽市）で全国大会が開催されるため、少しでも参加者が増えるよう、海外の学会や他支部の支部大会に積極的に参加し、大会の広報をしております。冬到来前の北海道にどうぞお越しください。

（支部長：小林 敏彦）

### [東日本支部]

◆第7回東日本支部大会を2016年12月4日（土）に西新宿の麗澤大学東京研究センターで開催しました。今回は、森住史先生（成蹊大学）をお迎えし『通訳訓練法を

取り入れた英語指標』と題する特別講演をしていただきました。また、小林敏彦先生（北海道支部長、小樽商科大学）、藤枝善之先生（本部大会実行委員長、京都外国語大学・短期大学）に研究発表をしていただいた他、6件の研究発表がありました。



講演中の森住氏

◆2017年度東日本支部春季例会を同研究センターで3月5日（日）に開催いたしました。延原みか子先生（都立産業技術専門学校）と嘉来純一先生（早稲田大学本庄高等学院）を講師にお迎えした『映画英語授業のための技術講習会』のほか、小泉勇人先生（早稲田大学・院生）からは、授業実践報告「007 映画の英語～英語クラスにおける Skyfall の導入実践例から～」、吉田雅之先生（早稲田大学）からは研究発表「『ハリー・ポッター』その他の登場人物の名前を巡って～その意外なつながりについて」がありました。

◆例会に先立って支部役員会を行い、6月25日（日）に行われる夏季例会および全国大会における支部企画の内容に関して検討を開始しました。

（支部長：渡邊 信）

### [中部支部]

◆9月24日（土）、2016年度中部支部研究会を開催しました。特別講演では、網野千代美氏（写真左）が、オードリー・ヘップバーンの息子、ルカ・ドットティ氏による『AUDREY at Home』を翻訳する過程における問題点等についてお話ししました。良い翻訳をするためには何が必要かについて、会場から多数質問や意見等もあり、大変有意義な時間となりました。また、この出版を担当した編集者の小寺 巴氏（写真右）から翻訳者との関わりを伺ったことも、大いに有益なものでした。



◆中部支部では、今年も会員による研究発表会、シンポジウムの開催等を予定しています。2016年度の支部研究紀要は、諸事情により発行延期になってしまいましたので、実現するよう努力を続けております。なお、全国大会への積極的な参加を呼び掛けています。

(支部長：諸江 哲男)

## [西日本支部]

◆「第14回西日本支部大会」を11月5日(土)に京都大学で開催しました。特別講演では山内信幸先生(同志社大学文化情報学部長)をお招きし、「映画」を文化情報学的に科学する一言語的情報に着目して」と題してご講演いただきました。シンポジウムでは「映画『スター・ウォーズ』を読み解く」と題して、國友万裕先生(同志社大学)、ルッケル瀬本阿矢先生(京都大学)、中村友紀先生(関東学院大学)が本映画の活用法を提案しました。映画英語学ワークショップでは「映画から見た生成文法研究」をテーマに、平井大輔先生(近畿大学)、吉田幸治先生(近畿大学)、石川弓子先生(愛知学院大学)、大宗純先生(関西外国語大学・院生)が議論しました。また、支部交流の一環として、小林敏彦先生(北海道支部長、小樽商科大学)には「洋画の教材開発：『レオン』のどの部分をどう見せて、何をするのか」と題してご発表いただきました。その他10件の研究発表があり、約60人の参加者がありました。



山内信幸先生

と題して、國友万裕先生(同志社大学)、ルッケル瀬本阿矢先生(京都大学)、中村友紀先生(関東学院大学)が本映画の活用法を提案しました。映画英語学ワークショップでは「映画から見た生成文法研究」をテーマに、平井大輔先生(近畿大学)、吉田幸治先生(近畿大学)、石川弓子先生(愛知学院大学)、大宗純先生(関西外国語大学・院生)が議論しました。また、支部交流の一環として、小林敏彦先生(北海道支部長、小樽商科大学)には「洋画の教材開発：『レオン』のどの部分をどう見せて、何を

するのか」と題してご発表いただきました。その他10件の研究発表があり、約60人の参加者がありました。

◆3月11日の「第6回北海道支部大会」には西日本支部から6名が参加し、角山照彦先生(広島国際大学)、藤枝善之先生(京都外国語大学)、横山仁視(京都女子大学)が研究発表をしました。

◆「第15回西日本支部大会」を2018年3月に実施予定です。

(支部長：横山 仁視)

## [九州支部]

◆平成29年2月26日に今年第1回目の運営委員会を開きました。議題は今年の支部大会の件と人事の件が主なものでした。支部大会は昨年福岡大学で開催しましたが、今年は大木正明副支部長の勤務校である大分県立芸術文化大学において、8月26日(土)に開催します。

詳細は決定次第、支部ホームページや会員管理システムにてお知らせします。

◆人事に関しては、本年で現支部長の任期終了のため、来年からは、吉村圭副支部長(鹿児島女子短期大学)が支部長に就任予定です。また藤山和久事務局長が広島に転勤になったため、新事務局長として鶴田知嘉香先生(福岡常葉高校)が今年の4月より就任します。また運営委員として昨年は石田もとな先生(西南女学院大学)や池田祐子先生(中村学園大学)が参加されましたが、今回新たに深津勇仁先生(日本経済大学)がメンバーに加わる予定です。このように九州支部にはやる気のある優秀な先生方が少しずつ加わって、支部活動を大いに盛り上げて頂いております。



村田 希巳子先生(西南女学院大学)、吉村 圭先生(鹿児島女子短期大学)、石田 もとな先生(西南女学院大学)

(支部長：高瀬 文広)

支部ホームページ紹介 (2017年4月現在)  
(北海道) <http://www.atem.org/hokkaido/>



(東日本) <http://atem.org/higashinihon/>



## ■委員会だより■

### 【国際交流委員会】

#### 第 21 回 STEM 国際大会 (MMSEE 2017)

ATEM の姉妹学会である STEM (The Society for Teaching English through Media) の第 21 回国際大会が 2017 年 9 月 15 日 (金) ~17 日 (日) に、韓国インチョン (仁川) 市の Gyeongin National University of Education で開催されます。今年度は KAMALL (The Korea Association of Multimedia-Assisted Language Learning), STEM (The Society for Teaching English through Media), KASEE (The Korea Association of Secondary English Education) の 3 団体による共同開催で、大会テーマは Active Learning & Interactive Teaching: Using Movies and Multimedia in English Classrooms です。ATEM からは全国の支部から総勢 11 組 12 名の先生方が発表される予定です。一般会員の皆さまもどうぞご参加ください。

○MMSEE2017 公式サイト

[http://www.mmsee2017.com/main/?load\\_popup=1](http://www.mmsee2017.com/main/?load_popup=1)



(委員長：井村 誠)

### 【会員管理委員会】

#### 会員専用ページ (会員管理システム) について

会員管理委員会は会員の方のデータを元に学会運営の効率を向上する役割を担っております。お知らせ、会費の収支状況、大会やジャーナル管理等がその例ですが、例えばジャーナルの管理では、原稿の募集や投稿をネットで行えるようにするだけでなく、ジャーナルを送付する宛先を出力する機能も含まれています。こうした作業の効率性は会員の方のデータの正確さに依存します。現住所でなければ郵送物をお届けすることができず、現在お使いのメールアドレスでなければお知らせをお届けすることができません。個人データの正確性は会員の方のご協力がなくては実現が難しいため、登録情報に変更がある会員の方は速やかに会員管理システムにアクセスの上「個人のページ」の更新をお願い致します (本紙

P8 参照)。不明な点は本部事務局までお問合せください。

(委員長：新田 晴彦)

### 【ICT委員会】

#### 本部ホームページについて

委員に京都外国語大学の巳波義典先生に加わっていただきました。現ホームページはリニューアル後すでに 2 年が経過し、各方面より改善の要求が出されております。新委員の加入もありましたので、第 23 回の全国大会に合わせてリニューアルを計画しております。ご期待ください。

(委員長：〈兼務〉新田晴彦)

### 【ジャーナル編集委員会】

#### ATEM ジャーナル第 22 号について

過日、皆様のお手元にお届けしました ATEM ジャーナル『映画英語教育研究』第 22 号について報告いたします。まず、第 22 号にご投稿下さった皆様に心よりお礼申し上げます。ここ数年、投稿数が伸びていることに委員一同、嬉しく思っています。

第 22 号への論文投稿数は 18 編でした。研究論文が 16 編、教育実践報告が 1 編、そして研究ノートが 1 編です。分野別では教育関連分野 9 編、言語 6 編、文化 3 編です。

例年の通り、各論文に対して 2 人の査読者により閲読が行われました。2 人の査読者のうちいずれかが掲載不可とした論文に対しては第 3 査読が行われ、修正後掲載可とするか、論文カテゴリーの変更を提案するか、あるいは投稿を取り下げて頂くかが検討されました。

このプロセスを経て最終的に第 22 号には、総数 18 編 (研究論文・教育実践報告 13 編、研究ノート 5 編) が掲載されることになりました。関係の皆様にも深く感謝申し上げます。今後とも当学会内外の教育研究者の方々には有益な情報と貴重な発表の場を提供できますよう、工夫を重ねて参ります。最後に、今回の誤植に関してご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

(委員長：塚越 博史)

### ●ATEM論文リンク集●

CiNii で閲覧が可能な、ATEM ジャーナル『映画英語教育研究』掲載論文および研究報告は下記よりアクセスできます。ご活用ください。

<http://atem.org/doc/>

## 【大会運営委員会】

### 第23回ATEM全国大会について

本年11月11日(土)、第23回ATEM全国大会が小樽商科大学3号館にて開催されます。特別講演者は、ジェンダーやセクシュアリティの視点から英文学作品や映画作品を研究しておられる、北海道大学大学院教授の瀬名波栄潤先生です。この他にも、IIBC(国際ビジネスコミュニケーション協会)によるTOEIC特別セミナー、会員による研究発表やポスターセッションが予定されています。会場の運営は北海道支部の大会実行委員会(委員長:小林支部長)が中心となって担い、本部の大会運営委員会(委員長:藤枝)がサポートします。小樽における初めての大会になりますが、盛会になりますように各支部・会員の皆様のいっそうのご協力をお願い致します。

(委員長:藤枝 善之)

全国大会の詳細は本部ホームページに掲載します。

<http://atem.org/>第23回atem全国大会/

※[http://atem.org](http://atem.org/) トップメニュー「全国大会」→「23rd National Convention」からアクセスできます。

※会員は全国大会の参加申し込みを本部ホームページ「会員専用ページ」から行ってください(本紙P.8参照)。

### 2017年11月11日(土)開催 第23回ATEM全国大会会場



## 小樽商科大学



〒047-8501 北海道小樽市緑3丁目5番21号

<http://www.otaru-uc.ac.jp>

## 【広報委員会】

### 広報の発行時期について

本号へ情報提供、ご協力くださいました皆様に、まずは心からお礼申し上げます。

さて本紙は、年2回、春と秋の発行としておりますが、全国大会の開催時期により、発行日が前後します。

たいていは4月と9月頃の発行ですが、昨年は7月に全国大会がありましたので、春号は2月に発行しました。今年は全国大会が11月のため、春号、秋号ともに通常より遅い発行となります。会の活動予定に応じ、便利に情報をお届けできるよう、作成手順とコンテンツの向上に努力しております。

(委員長:松田 愛子)

### 支部ホームページ紹介 (2017年4月現在)

(中部) <http://www.atem.org/chubu/>



(西日本) <http://www.atem.org/kansai/>



(九州) <http://www.atem.org/kyushu/>



本部 <http://atem.org/>

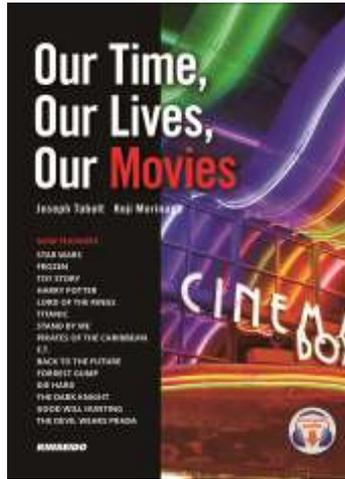


## ■書籍紹介

# Our Time, Our Lives, Our Movies

映画で読む

わたしたちの時代と社会

Joseph Tabolt・森永弘司  
著（金星堂、2017）

社長から呼び出され、手渡されたのは *Die Hard* について書かれた 500 words ほどの英文だった。たんなるあらずじや作品紹介にとどまらず、特殊効果技術から人種問題、はては新しいアクションヒーロー像の考察にいたるまで、いくつかのテーマを簡潔かつ巧みにまとめあげる技量もさることながら、何といても印象的だったのは、あたかも *Die Hard* の fast-paced な雰囲気再現したかのような、その活き活きとした語り口だった。読んでいて単純におもしろかったのだ。その後、会議を経て本格的に本企画が動き出すこととなった。

次に送られてきたのは *Good Will Hunting* について書かれた原稿だった。*Die Hard* から一転して、アメリカ社会における「自己実現」(self-fulfillment) をキーワードに、アメリカのみならず現代社会においてわれわれが直面している問題を正攻法のスタイルで描き切った英文は、*Die Hard* とは違った意味で読ませるものだった。以前勤めていた出版社で、「確信のもてない本はつくるな」といった趣旨のことを編集の仕事の師匠にあたる人物から教えられたが、本書に関して確信をもったのは、まさにこの *Good Will Hunting* の原稿を読んだ瞬間であったと思う。

以降、新しい原稿が送られてくるのが楽しみになった。そして原稿が送られてくるたびに、こちらの期待は軽々と超えられていった。著者の Joseph Tabolt 先生はニューヨーク州ウォータータウンの出身で、来日後、種子島での ALT の活動などを経て、現在は明海大学の津由紀雄先生のもとで言語学を専攻している博士課程の大学院生である。1984 年生まれの Joe 先生——とお呼び

していた——にとって、取り上げた作品の中には生まれる前後の頃のものもあったが、それでも毎回ユニークなアプローチで素材を見事にさばいていくさまに、なぜそのようなことが可能なのかと驚かされた。その答えは、「才能」という以外にみつからない。才能ある新しい著者との出会いは、編集者にとっていくつかあるよろこびのひとつである。

その Joe 先生をご紹介いただいたのは共著者である森永弘司先生であり、そもそも森永先生なしにこの本は誕生しえなかった。森永先生には主にコラムを執筆していただいたが、英詩がご専門であった先生の含蓄に富んだコラムは、時に文学作品との関連性に、時に作品中の英語表現に言及されており、本書に奥行きを与えていただいた。親子ほど——あるいは失礼ながら祖父と孫ほど——年齢が離れているようにも見えるおふたりの名コンビぶりはどこか「映画的」で、編集者としては実に楽しく仕事をさせていただいた。

ところで、本書には課題がふたつあった。映画を題材としたリーディング教材に商品としての競争力があるのか、そして本書の「軸」を何にするのか、である。近年、映画を題材としたテキストは映像付きのものが主流であるが、どうしても特定の作品を扱うことになる。そこを逆手に取り、『スター・ウォーズ』から『アナ雪』まで、学生のみなさんが知っているような大ヒット映画を中心に取り上げ、幅広く関心を持ってもらうことで前者には



対応した。後者に関しては、社長からのアドバイスもあり、なぜあの映画は大ヒットしたのかという観点から、映画と時代／社会との相互的な影響関係を読み解くことを「軸」とした。それを Joe 先生が見事に調理してくださったのは前述のとおりである。

練習問題はオーソドックスだが、Read & Write、Listen & Write など、単調にならないようにどれも工夫を施してある。また、本文に登場する表現を使った Write & Speak では、自分が読んだ英文と「使える英語」が直結することを示した。

本書を通じて学生のみなさんに映画と英語のおもしろさを少しでも感じていただければ、それもまた編集者のよろこびのひとつである。

今門 貴浩（金星堂）

## ■会員専用ページ（会員管理システム）

「会員専用ページ」は本部ホームページのトップから「会員管理システム」へログインしご利用ください。

<http://atem.org>



会員管理システムでは、メニュー「個人のページ」「個人の会費納入状況」「大会情報」「紀要（ジャーナル）情報」から・個人情報の更新・会費納入状況の確認・全国大会の研究発表応募と参加申し込み・ジャーナルへの論文投稿が可能です。 ※不明点は本部事務局へお問合せください。

## ATEM Clapper Board



1. 本紙の既刊号は最新号を含め、本部ホームページの Newsletter Back Issues から PDF 版のダウンロードが可能です。広報活動にご活用ください。
2. ATEM は論説資料保存会に加盟しており、ジャーナル『映画英語教育研究』は学会外にも公開しています。下記 URL からご覧いただけます。  
<http://www.ronsetsu.co.jp/>

3. 2017 年度会費（4/1～翌 3/31）5000 円の納入をお願いします（納入期限：6/30）。同封もしくは郵便局備え付けの振込用紙（青色）をご利用の上、下記口座へ納入ください。個別の納入状況については、本部ホームページ内にある「会員情報システム」（この頁の上部参照）で確認が可能です。2 年以上滞納された場合には、会員資格を失いますのでご注意ください。

ゆうちょ銀行：00820-3-1477  
口座名義：映画英語教育学会事務局  
※通信欄に「〇〇年度年会費」と明記ください。

事務局 office@atem.org

## <賛助会員一覧> (50 音順) 2017. 4. 1 現在

株式会社朝日出版社  
株式会社アルビス  
株式会社金星堂  
株式会社近代映画社  
国際トラベル京都  
一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会  
シードラーニング株式会社  
松柏社  
株式会社成美堂  
センゲージラーニング株式会社  
チエル株式会社  
株式会社ネリーズ  
ピアソン・ジャパン株式会社  
広島工業大学学務部 MM 準備室

## ～編集後記～

- ・ATEM Newsletter は、No.28 よりカラー版で発行されております。バックナンバーは No.24 よりホームページ掲載の PDF 版にてカラーでご覧いただけます。
- ・次号 (No.33、第 23 回全国大会特集) は、全国大会開催日の関係上、いつもより少し遅い 12 月発行の予定です。

【広報委員会】 2017.4.1 現在

委員長：松田 愛子（北海道）

委員：田口 雅子（北海道） 杉浦 綾子（東日本）  
井土 康仁（中部） 衛藤 圭一（西日本）  
鶴田 知嘉香（九州）

©ATEM All rights reserved.

